

平成 30 年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

澁谷 拓巳¹・木村 一平²・斉藤 和花²・花坂 龍²・後藤 武俊¹

¹東北大学大学院教育学研究科

²東北大学教育学部

本稿は 2003（平成 15）年より活動を継続している「東北大学学校ボランティア」事務局（以下、学校ボランティア）の 2018（平成 30）年度の取り組みを報告するものである。

1 「学校ボランティア」概要

1.1 実施体制

学校ボランティアは、東北大学大学院教育学研究科・先端教育研究実践センターの事業の一環として行っている取り組みであり、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とする事務局を設置して運営している。現在、事務局には東北大学の大学院生と学部生が 5 名所属しており、川内南キャンパス文科系総合研究棟 6 階に窓口を設置して活動している。詳しい活動状況については後述する。

事務局は仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）と提携している。仙台市教委が仙台市内の小中学校のボランティア要請を集約したものを、事務局が受けとり、本学学生に対してメールなどの媒体で配信する。本年度はその他に、大和町や大崎市、東松島市、大衡村、亘理町、岩沼市、柴田町、富谷市といった多くの教育委員会からもボランティア要請を受領し、学生に対して募集情報を配信した。仙台市外のボランティアの概要については「2. 2018 年度ボランティア活動状況」にて報告する。

1.2 ボランティア活動内容

要請のあるボランティア活動は、小中学校での学習指導補助や、配慮を要する児童・生徒の指導補助と休み時間の話し相手、部活動や課外活動の補助など多岐にわたる。

1.3 活動学生の募集及び派遣方法

事務局では東北大学の全学部・研究科の学生を対象として、以下の方法でボランティアの募集活動を実施している。

- ① メーリングリスト
- ② 先端教育研究実践センター前掲示板
- ③ 各研究科教務課への募集掲示依頼

2 事務局活動状況

学校ボランティア事務局（以下、事務局）のおこなっている活動の概要を説明する。事務局の基本業務は主に、広報活動と活動者向け対応（各種手続きを含む）に分類される。

2.1 メーリングリスト

広報活動の中心はメーリングリストの配信である。メーリングリストの対称は学部・研究科を問わず、全東北大生としている。メーリングリストへの登録は通年で随時おこなっているが、初めに学務情報システムや教育学研究科内の掲示板を利用して学生の登録を促している。登録学生に対しては定期的（月2, 3回程度）にボランティア要請情報をメールで配信した。

2.2 ボランティア活動希望者説明会

昨年度に引き続き、今年度も活動希望者説明会は5月の1度のみ開催した。回数を1度のみにした理由は、年に複数回の説明会を実施するよりも、随時活動希望者を募集し、個人のニーズに沿った形で個別に説明会を実施する方法が、本学の学生の実態に適していると判断したためである。本来は年度の初めに開催される、仙台市教委による研修会への参加が活動開始の必要条件となっているが、それ以外の時期の活動希望者に対しては、事務局員が仙台市教委による研修会を受講し、その説明を代行している。

2.3 ボランティア活動者対応

ボランティア活動希望者および活動者に対しても支援活動をおこなっており、この活動が事務局の中心的な業務である。一般的な活動希望者対応の手順としては、まず学生からの活動希望をメール等で受信すると、事務局が活動希望学生に対してボランティア開始までの手続きのほか、交通費、保険に関する説明を行う。それと同時に活動希望先の学校にも連絡をおこない、まだ募集が継続されているかどうかや、学生に対して連絡してほしい事項などを確認している。また、学生のニーズに応じて、派遣先となる学校側にボランティア内容の詳細を確認するなど希望学生と募集学校間の調整役を担っている。実際に活動が開始した後も、必要があれば連絡を取り合い、学生のサポートを行う。

3 2018年度ボランティア活動状況

本節では、今年度のメーリングリスト登録者、ボランティア活動者の人数および所属構成をまとめ、学校ボランティアにおける活動学生の特徴について考察する。

3.1 ボランティア要請の状況

本学へのボランティア養成は以下のように分類されている。

表 1 仙台市教委からのボランティア要請の分類

A①	各教科における指導補助
A②	総合的な学習の時間における指導補助
A③	特別活動（学校行事，クラブ活動），道徳等の指導補助
A④	情報教育における指導補助
A⑤	学校図書館における指導補助
A⑥	放課後や休み時間等における児童生徒の話し相手，相談相手
A⑦	部活動指導補助
A⑧	そのほか，必要になる活動
B	にこにこボランティア
C	すくすくボランティア

上記分類の中で，Bのにこにこボランティアは「学校生活の中で配慮を要する児童に対する継続的，定期的な支援を行うボランティア」と定義されており，大学で教職課程又は心理学を履修した者，又は履修している者がボランティア学生の対象条件である。また，Cのすくすくボランティアは「発育測定や保健室において直接児童生徒に係る支援」であり，養護教諭免許取得に必要な科目を履修した者，又は履修している学生が対象のボランティア募集となっている。しかし，基本的に東北大学および大学院では養護教諭免許取得に必要な科目が開講されていないため，学生向けのメールでは掲載していない。

分類別の要請件数を図 1 に示す。ただし，あらかじめ要請が 1 件もなかった分類に関してはグラフから除いてある。本学に要請がある活動の中で最も要請多かった活動は，A①と A⑧であった。A⑧の具体的な内容は情緒学級における支援や別室登校の児童生徒への支援，放課後の学習支援等であった。本学へのボランティア養成は学習支援と特別支援系の要請が多く，9月と 12月以降を除く，すべての月で依頼があった。

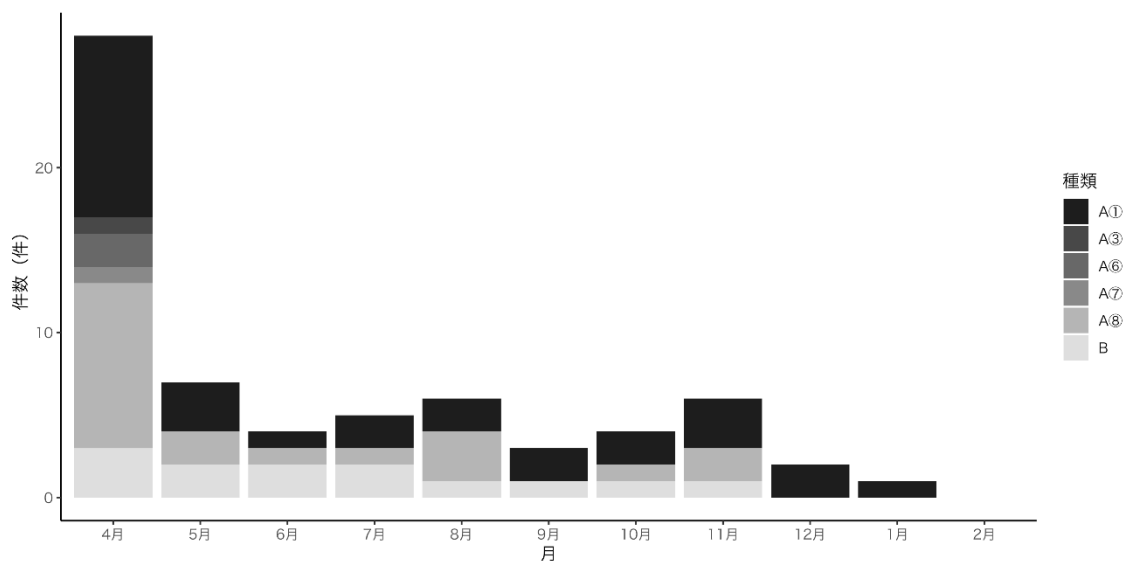


図 1 2018 年度ボランティア要請件数

3.2 メーリングリスト登録者およびボランティア活動者の状況

メーリングリスト登録学生の所属別登録時期を図2に示す。所属別に分類すると文学部と教育学部の学生の登録希望が最も多い。大学が長期休会に入る直前の7月は、工学部など他学部の学生の登録希望が増加していることも見受けられる。

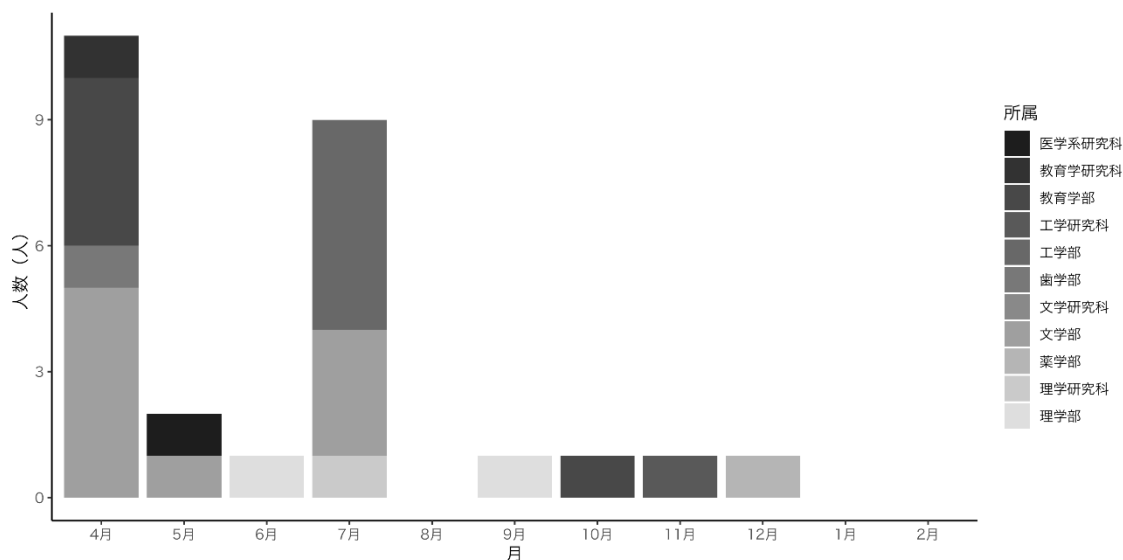


図2 メーリングリスト登録者の所属と登録時期

次に累積の登録者数の変化をグラフ化したものを図3に示す。4月の当初と長期休暇に入る直前の7月に登録希望者が増加するが、それ以外の月は平均して1, 2人程度の登録希望である。

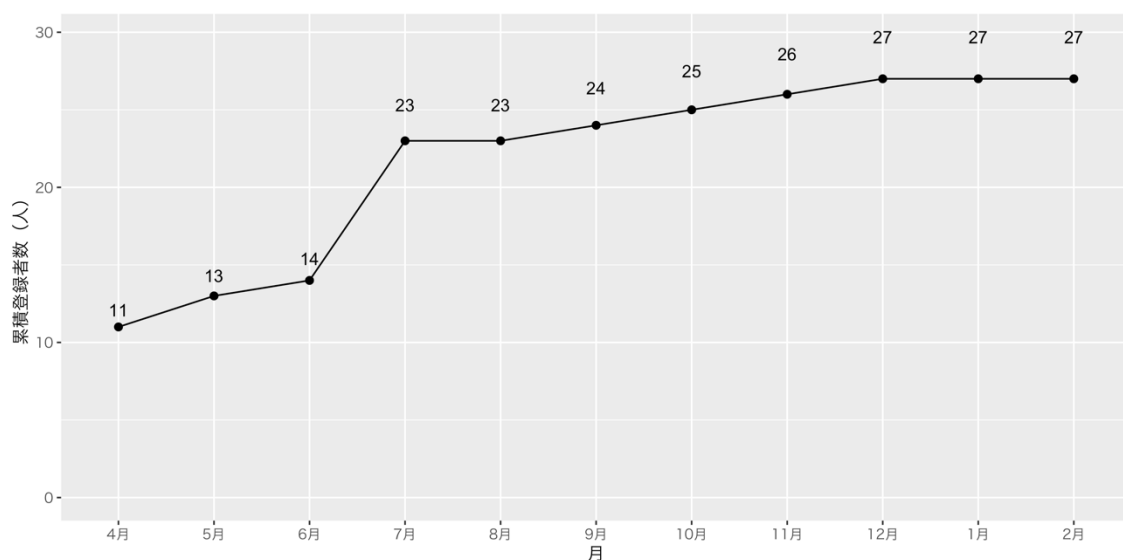


図3 累積登録希望者

3.3 ボランティア活動者について

活動希望者に人数とその所属を表 2 にまとめた。昨年度に比べて大幅に活動者が減少しているものの、引き続き昨年度と同様に教育学研究科所属の学生による活動希望が最も多い。

表 2 活動者人数とその所属

学部・研究科	人数
文学部	2
法学部	1
理学部	2
教育学研究科	5

最後に仙台市外からのボランティア要請の一覧を示す。仙台市以外の宮城県内の自治体から来ている募集であり、そのすべてが学習支援（仙台市の分類で言えば A1 か A8）である。

表 3 仙台市以外のボランティア要請

仙台市外からの募集 ボランティア名	活動場所	活動内容
たいわサマースクールのボランティア募集	大和中学校・宮床中学校	生徒の学習を見守り、問題につまずいている生徒や分からない生徒のサポートをする
大崎学び支援ボランティア募集	各中学校区の中学校	児童生徒の自学自習の場に付き添い、学習支援を行う
学生ボランティア募集	東松島市内 ①東松島市図書館 ②野蒜市民センター	児童生徒の自学自習を見守り、支援する
亘理町学習支援員(ボランティア)募集	亘理小学校、逢隈地区交流センター、亘理中学校	夏休み中に開催する学習会での小中学生に自主学習の支援
岩沼学び塾	岩沼市内小学校、岩沼北中学校	小：宿題取り組みの見守り 中：自主学習の支援
柴田町学び支援員	町内各小学校	自主学習の見守りと学習支援、担任補助
学び舎Tomiya学習支援員	富谷市給食センター2F	自主学習の学習支援
大衡村学び支援員募集	大衡中学校	全体的な学習支援、苦手教科の学習支援、自学自習の見守り

4 活動者の声

ボランティア活動に参加していただいた学生に対して、活動終了後に「活動報告書」という形式でアンケートを実施した。活動報告書では学生の活動内容、感想、困った点、今後の事務局に対する要望の 4 つを尋ねている。この報告書を本稿に掲載するにあたって個人名や学校名には匿名化の処理を行っている。

A さん（学部生）	
活動内容	放課後の自習の助力、指導を週 1 程度で行った。また、障害者学級の授業補助も行い、障害者たちと交流することもあった。

感想	<p>放課後学習の補助に関しては、生徒が黙々と勉強をしていることもあり、少々距離を感じる部分もあったが、高校入試の自己推薦書の文章に関する指導では納得を持って受け入れてもらえたように思う。</p> <p>特別支援学級の指導に関しては、一人一人に障害の程度や個性があり細やかな支援が必要であることを実感した。また、先生方が生徒一人一人の社会の中での自立のためにマナーなどを重点的に指導していることを学んだ。</p>
困った点	<p>特にないが、悪天候で自転車が使えない場合に交通費が支給されると、参加しやすくなると思う。</p>

Bさん（院生）	
活動内容	<p>特別支援学級の補助を週1程度で行った。実習等のために月1程度になることもあった。</p>
感想	<p>昨年度から継続して行っているが、この1年はより子供たちの成長を感じることができたように思う。長期的に子供たちとのかかわっているからこそ見えてくる姿があり大変有意義な活動であった。また、先生方と子供たちとの関わりから多くのことを学ばせていただいた。同時に1人1人に合わせた指導を行うことの難しさも感じた。非常に貴重な体験であったように思う。</p>

Cさん（院生）	
活動内容	<p>毎週月曜日の1時間～4時間目に1年生の2クラスの補助に入りました。どちらのクラスに入るかは、朝、先生方と相談して決めていました。学級での授業はクラス内を周回しながら、手をとまっている子のサポートを行うことがメインでした。</p> <p>特に発達に偏りのある児童を見るが多かった印象です。</p> <p>たてわり活動での地域の落ち葉拾いや、学習発表会のお手伝い、地域の方との交流会など教室外での学習のお手伝いをすることも度々ありました。</p> <p>休み時間には毎回子どもたちと校庭で遊んでいました。</p>
感想	<p>想像以上にやりがいのある活動でした。</p>

	<p>学校に馴染むまでは少し緊張することもありましたが、先生方も親切ですし、子どもたちも懐いてくれて、毎回とても楽しかったです。</p> <p>指導面では学習支援のボランティアの経験があったので、戸惑うことはほとんどありませんでした。ただ、発達の偏りのある子への関わりは少し難しさもあり、そのような時には担任の先生が助けてくれました。</p> <p>活動全体を通して、自分から積極的に関わろうとすればするほど、やりがいを感じられる活動だと思いました。</p> <p>自分自身にとってたくさんの気づきがあったように感じています。</p>
困った点	<p>前述しましたが、発達障害傾向の子どもへの接し方は少し戸惑うことがありました。</p>

D さん（学部生）	
活動内容	<p>スタディサポーターとして月に 4～5 回程度活動しました。活動内容は、生徒が課題をやる様子を見て回ったり、生徒からの質問に答えたりして、宿題等の取り組みを後押しするものでした。</p>
感想	<p>学習塾や家庭教師などの経験がなく、初めは、中学生との接し方や分かりやすく勉強を教えることに苦労しました。しかし、他大学のサポーターの方や先生方とお話しするなかで、生徒との接し方等を学び、積極的に話しかけることが出来るようになりました。自分にとって、とても学びの多い充実した機会になりました。</p>
要望	<p>同じように中学校等で活動している方々と交流できる機会があると、互いの活動の様子を知ることが出来て良いなと思いました。</p>

E さん（院生）	
活動内容	<p>頻度：週に 1 回程度</p> <p>対象：中学校の特別支援学級に在籍する子どもたち</p> <p>行ったこと：授業の補助等</p>
感想	<p>さまざまな特性の子どもたちと関わる中で、特に子どもたちの成長を感じました。</p>

	<p>障害が比較的軽いことも、重い子どもも、伝え方を変えればできないことができるようになったり、進級して上級生の自覚が見えるようになったりと、日々成長していく印象がありました。</p>
困った点	<p>子どもにどこまで指示的に関わるべきか悩むことがありました。ただ、先生方や支援員さんの対応、それに対する子どもの反応などを見させていただくことが参考になっています。</p>

Fさん（院生）	
活動内容	<p>週1の水曜日午前中（または午後）に、公立中学校の特別支援学級に伺いました。</p> <p>主に、中学1～3年生の生徒さんたちと、授業を一緒に受けたり、分からないところがあればヒントを出したり、○付けを担当したりしました。</p> <p>休憩時間中は、話し相手として、最近あったことや好きなことについてお話したり、生徒さんが好きな本と一緒に読みながら、クイズを出したりしました。</p>
感想	<p>昨年度に続いて2年目の活動だったため、生徒さんたちも名前を覚えてくれるようになり、大分、話もしやすくなりました。特別支援学級ということで、感覚過敏な特徴のある子や、作業に集中するのが苦手な子、家庭環境が落ち着かない子等、個々の背景事情は複雑で、接する際にどのように話しかけるか、どのくらいの距離を持っていたらいいのかが常に私の課題でした。</p> <p>今年度の活動を通して、そうした状況に置かれる生徒さんの困難さを理解するように努め、学校に来ることが少しでも楽しく、意義のあるように感じてもらえれば良いと思って活動していました。</p> <p>「当たり前」とされることが苦手な生徒さんが多いのですが、それでも、将来、自分の力で生活していくために、今できる目標を立てて、授業や学校生活を過ごしており、そのような生徒さんの頑張りをみることで良かったと思います。同時に、この子たちにとって、こうした日常を「頑張る」面だけでなく、「楽しむ」面も持つことが、前向きに生活する上で重要だと感じました。</p>
困った点	<p>いたづらをする子を見て、注意しようか悩んでしまったり、雑</p>

	<p>談の際に、生徒さんによって、こちらの態度が変わってしまうことがありました。思春期の男の子たちと付き合っていく上で、危害を加えられるのではと、自分自身が恐怖を感じることもあり、それは難しいと思いました。</p>
--	---

G さん（院生）	
活動内容	特別支援学級の授業補助
感想	学校の仕組みや連携について学べた。
困った点	複数人でボランティアに行く際に連絡を共有できるようにしてほしい。

H さん（院生）	
活動内容	週に 1 度小学 3 年生の授業補助をした。
感想	<p>小学生といっても、1 年生から 6 年生までおり、学年により成長も学習する内容も全然違うと感じました。先生は本当にプロだと感じる場面が多く、たくさんのことを学ばせていただきました。先生の技を盗む部分もありましたが、先生が色々アドバイスを下さることで学ぶ部分も多々ありました。</p> <p>私自身がボランティアとして先生の負担を軽減するほど貢献できていなかったのではと感じています。一方で、ボランティアとして毎週学校に行く事で教育の難しさややりがいなどを肌で感じ、教育について考える機会を得られたことは大変貴重な経験だったと感じています。大学院で本だけ読んで知識を詰め込んでいても実際を知らなければ何の意味もないと思いました。</p> <p>毎週本当に勉強になることばかりで、先生にとっては迷惑かもしれませんが、ボランティアとして活動することはとても有意義だと思っています。</p>
困った点	<p>素人の自分があまりお役に立てていないようで、それが困った点ではありませんが、申し訳ない点と感じた点です。（小学校の教育分野は素人なうえに、中学高校の教諭免許は所有しているけれども、実践経験自体はないという状況であったため。）今更ですが、先生は雑務もたくさん抱えており、私が来た時用の雑用を敢えて用意をしてもらっておくように頼んでおいてもよかったかもしれません。</p>

要望	もう少し一緒にボランティア活動をする人数が欲しかった。
----	-----------------------------

Iさん（院生）	
活動内容	週に2回程度特別支援学級の補助をした。
感想	最初は、早く仲良くなりたいという思いからたくさん話しかけ、良くないことをしているときは、先生のように注意していました。しかし、そのような関わりではあまり打ち解けることができませんでした。同じ目線に立って「今はこんなことを考えているのかな?」「これがしたかったのかな?」と考えながら、生徒の世界に入っていきような関わりをしているうちに、少しずつ生徒たちの方からも話しかけてくれるようになりました。ゆっくりと生徒たちの好きなことを共有できるような関わりが大切だということを学ぶことができました。

Jさん（院生）	
活動内容	頻度：定期考査の直前期や春期や夏期の長期休業中の数日間 対象：塾に通っていない子ども達を主たる対象として 行ったこと：生徒たちの学習上苦手とする分野の克服を補助した。
感想	生徒たちの「わからない」が解消されたときは素直にうれしい。 定期的に学校現場に足を運ぶことになるので、研究活動や教員採用試験勉強のモチベーションになる。 学校の先生方に非常によくして頂いて、学校現場の実情等多くのことを学べた。
要望	学習補助をしている人を集めて交流会を開いてほしかった。

Kさん（学部生）	
活動内容	月に2回ほどの学習補助。
感想	初めは慣れないところもあったが、中学生が一生懸命学習に取り組んでくれていてうれしかった。

5 来年度に向けた課題

本節では学校ボランティア事業の運営を行う事務局として、今年一年間の活動を振り返り、今後のよりよい活動のために課題と来年度への抱負を述べる。

澁谷

今年度は昨年、一昨年に比べて活動者・登録者共に減少気味でしたが、一方で、仙台市以外の募集の活動者が徐々に増えつつあることから、学校ボランティア事務局に求められるものも変わってきているのかもしれない。

私が事務局に携わった 6 年間を通して、メーリス、活動説明会、ポスター、食堂の三角柱、SNS、様々な手法を用いて広報活動をおこなってきた。うまくいかなかった試みや定着しなかった取り組みもあったが、探索的に事務局運営をおこなっていくことは面白いものでもあった。今後も試行錯誤しながら事務局のさらなる改善が必要となるだろう。来年度以降もこの事務局が東北大学の学生がボランティア活動をおこなう際の一助となることを期待している。

木村

まずは今年度も学校ボランティア活動を無事に終わられたことを嬉しく思います。活動者の方々はじめ、関わった全ての方に感謝申し上げます。

事務局の活動は、あくまで活動者と学校の仲介であり、ボランティアを始めるか否かはひとえに活動者の方々の志願によるものである。そのモチベーションには、学校現場を実習以外の方法で知ることが出来る、単純に子供とふれあいたいなど多様だが、要は自分のためになるから、ということが根底にあるのだと思う。

大学生活は、周りに言われるほど時間が有り余っている訳ではない。その貴重な時間を割く価値があるのかも分からない。よく吟味した上で、この経験が必要だ、やってみたいと感じた時に、気軽にご連絡をいただければと思う。今後とも学校ボランティア活動並びに事務局を暖かく見守ってほしい。

斉藤

今年もメーリスを通して、多くのボランティア依頼を学生に配信することができた。来年度も引き続き、一人でも多くの学生にボランティア活動に興味を持ってもらえるよう、頑張っていきたいと思う。

花坂

まだ、事務局員を初めて 3 ヶ月ほどで、慣れない部分もあったが、メールの対応の仕方やボランティア希望者と学校の中の仲介などの基本的な作業ができるようになった。来年度以降も継続して頑張っていきたいと思う。

後藤

今年度も 5 名の学生とともに事務局の業務を無事進めることができた。まずは学生の皆

さんに感謝を申し上げたい。

事務局の運営は学生主体で行われているため、メンバーの入れ替わりが避けられないなかで安定した事務局運営を行っていくことが常に課題である。幸い、1年生の花坂君が入ってくれたので、今後も持続的な運営に期待がもてる状況である。一方で、6年間にわたり事務局を支えてくれた澁谷君が今年で卒業する。本活動は彼の働きに多くを負ってきたため、来年からの運営に不安が残るところであるが、現メンバーと力をあわせて事業の継続を図っていきたい。

澁谷君、お疲れ様でした。6年間ありがとうございました。